

アクション 1

パワーシフトしたたくさんの人の笑顔を集めてポスターを制作します!

写真募集中



私たち、パワーシフトしました!

自然エネルギーの電力会社へ契約を変更した人が、自宅や事業所にステッカー等で、アピール(見える化)することで周囲へ広めるアクションです。

アクション 2

電力会社どうしてる? アンケート

どんな電力会社を選んだ・選らびたい? (右グラフ参照) 中間集計では、電力会社を変えていない理由として、「手続きが面倒、よくわからない、不安がある」といった声が多く聞かれました。半数の人が自然エネルギーの電力会社への移行を希望しており、情報さえ届けばパワーシフトがもっと進むであろうことがわかりました。

アンケートは実施中 → こちらから



もっと!もっと!パワーシフト 自然エネルギーの電気を選ぼう

パワーシフト見える化アクションチーム座長 青木マキ(ネット青葉/横浜市議)

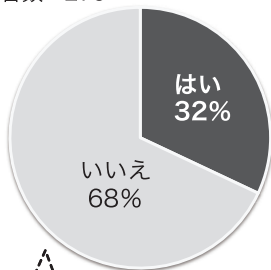
電力小売自由化から一年。一般家庭向けの新電力への移行は 2017 年 5 月時点でようやく 10% を超えました。チームでは電源のあり方を問い、自然エネルギーの電力会社への契約変更=パワーシフトが進むよう様々な取り組みを進めています。

昨年、経済産業省は、福島第一原発事故の賠償費用や廃炉費用の一部を託送料金で負担するという案を打ち出しました。神奈川ネットは、こうした動きに対し反対署名に取り組みましたが、その後出された電気事業法施行規則一部改正案には、反対の声は反映されていません。原発コストは安いという過去の誤った認識のもと、事故の責任を曖昧にしたまま、どこまで膨れ上がるかわからない賠償・廃炉費用を国民に負担させる動きは、自然エネルギーの導入促進に水を差すものです。また、エネルギーの未来にも暗い影を落とす受け入れがたい方策と考えます。

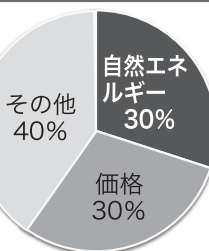
エネルギー基本計画はどこへ向かう?

Q1. 電力会社を変えましたか?

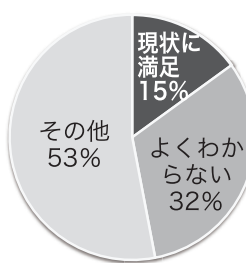
回答数: 275



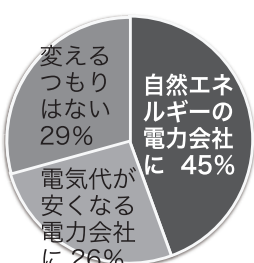
Q2. 電力会社を変えた理由は?



Q3. 電力会社を変えない理由は?



Q4. 今後、電力会社を変えたいですか?



世耕弘成経済産業大臣は、会議の冒頭「計画の骨格を変える段階にはない」と述べています。しかし世界に目を向ければ、福島第一原発事故を受けて、ドイツ・イタリア・スイス・台湾・韓国等多くの国が脱原発を宣言をし、世界全体の自然エネルギーの導入量は、原発のおよそ2倍となり増え続けています。さらに2015年12月

に採択された「パリ協定」によって、脱石炭火力の動きも加速、世界が自然エネルギーへと大きく舵を切る中、日本のエネルギー政策が改めて問われています。神奈川ネットは、自然エネルギー社会にシフトするため「パワーシフトしました!」という声を見える化する「パワーシフト見える化アクション」を進めます。

東日本大震災の教訓を 未来に繋ぐ

視点



岩本 香苗 (ネットさがみはら)

2011年3月11日から6年半が経ちました。東北の被災地から、復興住宅の完成、新たな商店街のオープン等のニュースが届いたのはつい最近のことです。かつての生活やコミュニティを取り戻すにはあまりに長い時間が経過しました。改めて震災被害の甚大さと復興の困難さを痛感します。

過去の記憶としてはなりません。「復興」の名のもとに、避難指示区域が次々と解除になり、災害救助法に基づく住宅供与制度がこの3月で打ち切られました。放射能の影響から逃れ、各地に避難している被災者は、孤立化、困窮化する現実には不安な気持ちを抱え、新たな地での繋がりを求めています。

神奈川でも震度5強を体験した、あの強烈な印象は、今でも鮮明に思い出されます。被災地の人々と思いを共有し、震災の教訓を忘れず、共に歩んでいこうと2013年から神奈川で開催している東日本大震災復興支援まつりは、今年5回目を迎えます。年一回、被災地の人々と、神奈川の私たちが直接会って、復興の歩みを確認し合う貴重な場となっています。震災以後、何度か訪れた被災地の風景を、これからも見て、そこで暮らす人々の話を聞き、伝え、共に生きていきます。

この避難者の現状を知ることから、原発事故もたらした致命的な現実を受け止め、私たちは、エネルギー政策の転換を進め、未来を選択していく責任を果たさなければなりません。

大震災後、多くの市民が、復興支援に、脱原発に、自らの意志で動き出しています。これらのムーブメントを止めることなく、市民社会を強くすることで、よりよい未来へ繋いでいきます。

